科目名	異文化理解と国際交流　　Cross-Cultural Communication						
科目担当者	安井 誠　　YASUI Makoto						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［総合教育科目　人間形成］ 経営学部・経営学科［総合教育科目　人間形成］					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	この授業の主たる目的は、受講生が異文化理解や異文化コミュニケーション、国際交流に関する基礎的な概念を身に付けるのを支援することです。異文化理解や国際交流に高い興味・関心を持ち、世界の平和を希求する学生、かつ授業中に行うペアワークやグループワーク、発表に積極的に参加できる学生に受講してもらいたいと思っています。 授業では、教科書に書かれてある理論的な枠組みについて補足しつつ、受講生自らが実際に経験したことや身近に起こった出来事などを取り上げ、異文化についての理解を深めていきます。授業が単なる知識の習得に終始するのではなく、自らの実生活関連付けられるよう進めていきます。 受講生は次の授業で取り扱う教科書の部分を丁寧に読み、身近な出来事と関連付けて理解したうえで授業に臨むようにして下さい。						
授業の到達目標	①異文化理解や国際交流に関する基礎的な概念を身につけることができる。 ②異文化の相違に起因する様々な問題を、自らの経験と関連付けて考察できる。 ③今後の平和な社会の構築に向けて、自分の意見を論理的に述べることができる。						

授業計画・内容		
	1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明）
	2	異文化コミュニケーションの基礎概念
	3	自己とアイデンティティ
	4	異文化コミュニケーションの障壁
	5	深層文化の探求
	6	言語コミュニケーション
	7	非言語コミュニケーション
	8	カルチャーショックと適応のプロセス
	9	対人コミュニケーション
	10	異文化コミュニケーションの教育・訓練
	11	異文化コミュニケーションの研究
	12	国際援助機関
	13	世界の貧困・南北問題
	14	国際交流の現状
	15	まとめ：新しい時代の国際交流

授業外学修 (事前学修)	指定した教科書を熟読し、次回の講義内容を把握しておく。また、講義内容に関連する実体験について共有できるよう整理しておく（毎週 2 時間程度）。
授業外学修 (事後学修)	授業に関連したニュースや新聞記事を検索し、知識・理解を深める（毎週 2 時間程度）。

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	講義内の試験 授業貢献度	70% 30%	①、②、③ ②、③

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』石井敏他、有斐閣、2020
参考文献	
その他	